

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実施報告書

- 1 学校名：広島県東広島市立高屋中学校
- 2 実施日時：2018（平成 30）年 11 月 29 日（木）13:25～15:15
- 3 対象：全校生徒 約 496 名、実技指導 代表生徒約 30 名
- 4 派遣アスリート：福田 正博 さん
(サッカー日本代表)

5 授業内容：講演、実技指導

2018（平成 30）年 11 月 29 日（木）に、広島県東広島市立高屋中学校において、オリンピック・パラリンピック教育実践が行われました。今回の実践では、元プロサッカー選手の福田正博さんを講師としてお招きし、全校生徒を対象にした講演と、1年生から3年生のサッカー経験者約 35 名を対象とした実技指導が行われました。

福田さんは、24 歳から 36 歳までの 12 年間はプロサッカー選手として過ごし、その間には、日本人として初めて J リーグの得点王となりました。日本代表にも複数回選出され、「ドーハの悲劇」で知られる試合でも、メンバーとして活躍されました。

「夢とチャレンジ」というテーマで行われた講演で、福田さんは、なぜ夢やチャレンジについて何度も考えなければならないかについて、生徒達に問いかけていました。その答えとして、夢やチャレンジがとても大切なものであること、しかし、そうであるにも関わらず、すぐに忘れてしまうことだからということをお話しされました。そして、今回の講演を通して、そのことについて少しでも思い返すきっかけになればと話していました。

昔、福田さんは、プロ野球選手になりたかったそうです。しかし、10 歳で転校した際、新しいクラス担任から「その調子で食べていたら太るぞ。土日は野球を続けても、平日はサッカーをやろう」と熱心に誘われ、いやいやサッカーを始めました。そのため、最初は、自分がサッカー選手になるとは思ってもみなかったといいます。

中学時代には部活動一色の日々を過ごし、全国大会目前のところまでいったものの、惜しくも破れ、非常に悔しい思いをしたとお話しされました。しかし、それと同じくらいに今でも後悔しているのが、好きな子に自分の気持ちを伝えられなかったことだそうです。その理由は、結果ばかりを先に考えてしまい、チャレンジする勇気がなかったからだと話していました。

福田さんにとって、人生で最大のチャレンジだったのは、サラリーマンという安定した職を選ばずに、不安定なプロサッカー選手の道を選んだことだったといいます。その選択の際はとても不安で、たくさんの人に話を聞いたそうですが、最後は自分で選んだため、後悔はしなかったといいます。そして、生徒たちにも、“人のせい”というのはない、最後の選択は自分でするものだという事を強く伝えていました。

福田さんは 12 年間の選手生活で、多くの監督と共にサッカーをしてきましたが、ある監督との出逢いは非常に大きかったといいます。その監督は、選手たちに自信を持たせてくれたのだそうです。そして、その監督から学んだこととして、人の悪いところや、自分の足りないところは、すぐに目に入ってしまうけれど、人や自分の良いところは努力しないと見えないとお話しされました。そして、自分ではわからないものが見えている他の人

の意見をよく聞くことが大切ということや、成功体験を重ねて、チャレンジをしていってほしいということをお話しされました。

講演の最後には、夢を叶えるために、まずは自分の実力をつけること、そして、運を味方につけることが大切と話していました。特に運を味方につけるためには、使う言葉を変えることで思考を変えて、自分の状況がラッキーだと思い込むことや、感謝の気持ちを言葉にすることが重要であるとメッセージを伝えていました。加えて、笑顔でいるともっと運を引き寄せられるので、常に笑顔でいてほしいとお話しされました。

講演のあとには、サッカー経験のある生徒が実技指導を受けました。ボール慣れの運動として、ドリブルやリフティングを用いたドリルを行ったり、二人組でのペアワークを行いました。また、全員がぶつからないようにドリブルをする練習や、仲間の股抜きをしながらドリブルする練習、さらには、福田さんからパスを受けてのシュート練習も行いました。福田さんは、一人ひとりに声をかけたり、速さよりも正確さが大切と話をされ、どの生徒も熱心に耳を傾けながら、練習にも意欲的に取り組んでいました。

6 授業の様子



【 講演 】



【 生徒からのお礼の言葉 】



【 実技指導① 】



【 実技指導② 】



【 実技指導③ 】



【 実技指導④ 】